

第5回播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会 議事要旨

日時：令和5年9月13日(水)14:00～16:00

場所：ホテルモントレ姫路

●意見照会内容

- ・県、市で国土交通省・経済産業省に要望に行った際に、国土交通省や経済産業省から播磨臨海地域での取組に対するフィードバックはあったか。
→(事務局)特に具体的な意見はなかったものの、播磨臨海地域における取組は国に認知され、理解いただいたと考えている。
- ・港湾脱炭素化促進事業について、記載されている実施期間について開始済なのか、開始時期未定なのか記載方法が事業によって異なると思われる。計画を公表する際には混乱を生じる恐れがあるため、整理したほうがよい。
→(事務局)港湾脱炭素化推進計画を策定するにあたって、素案の内容について改めて各企業等の意見を伺う予定であり、その際にあわせて再度確認、修正する。
- ・経済産業省では、カーボンニュートラル実現に向けて国際競争力ある産業集積を促す拠点を今後10年間程度で大規模拠点3か所と、中規模拠点5か所整備することを目指し、インフラ整備支援制度の創設を検討しているとのことだが、本支援制度における事業性調査からインフラ整備に至るスケジュール感は如何か。
→拠点整備に係るスケジュール感は本省内での議論中であり、現時点での話となるが、早ければ来年度早々にもFS調査を募集する可能性がある。ただし、拠点によって社会実装までのスケジュールに時間差はあると考えている。
- ・インフラ整備支援制度において、拠点は大規模発電利用型、多産業集積型、地域再エネ生産型に類型化されているが、播磨臨海地域はこれらを全て包含する拠点という捉え方をしたほうが良いと思う。
- ・水素受入拠点を整備する主体及びスケジュール感は如何か。
→(事務局)現段階では実施主体、スケジュール感とも未定である。既存のLNG基地と同様、様々な関係者が参画して整備することを想定する。
- ・臨海部等におけるカーボンニュートラル化だけでなく、船舶(燃料)のカーボンニュートラル化についてもセットで検討し、行政側から仕掛けることができれば良いと考える。
→(事務局)現時点では具体的な計画として盛り込んでいないが、船舶の燃料をどうするかという視点は必要であると思う。播磨臨海地域では各企業が先行して進めている取組があるため、それに対してバックアップするという進め方をしているが、将来的には、新たな取組の芽が出て協力の余地があれば協力を検討していきたい。
- ・企業との対話のなかで、脱炭素化を進めるにあたって必要となる予算を把握し、早期に経済産業省や国土交通省に相談する必要がある。また、他港への二次輸送に関して、西日本の工業地域全体のCO₂排出量を播磨臨海地域で削減

するという視点で国に働きかけては如何か。

→(事務局)企業の協力を得ながら、国への働きかけを継続していきたい。

・拠点整備に向けて地域間競争になりつつあるなかで、経済産業省が検討している拠点に選定されることが脱炭素化を進めていくうえで重要になると考える。播磨臨海地域の特徴をアピールしながら進めていただきたい。

・播磨臨海地域ではサプライチェーン全体に注目して計画を検討しているという特徴がある。企業としては脱炭素を実現することが一番の目標で、既存設備を活用した水素混焼など段階的に取組を進めている状況である。脱炭素化に向けた移行期間に各企業が取り組んでいる事例を示すことで、脱炭素化に向けて播磨臨海地域で着実に取組が進んでいることを認識いただけたらと思う。

・拠点整備に向けては、播磨臨海地域における需要が多いことに加えて、日本全体での拠点配置や、瀬戸内地域や西日本における需要のカバーという観点から播磨臨海地域の優位性があることを示すなどして、必要性を整理していただきたい。

以上